

運輸政策研究所 研究報告会 2006年春（第19回）

# 世代毎の国内観光行動の特徴を考慮した 高齢社会における観光施策の検討

A Study on Tourism Policies for Aged Society  
Based on Domestic Tourists' Behavior by Generation



(財)運輸政策研究機構 運輸政策研究所 研究員  
Institute for Transport Policy Studies, Researcher

日比野 直彦

Dr. HIBINO, Naohiko

© Naohiko HIBINO, Institute for Transport Policy Studies, 2006

# 報告内容

## Contents

### 1. 背景と目的

Background and Objective

### 2. 国内観光行動の時系列分析

Time-series Analysis on Domestic Tourists' Behavior

### 3. 団塊の世代の観光行動

Domestic Tourists' Behavior of Baby Boomers

### 4. まとめ

Summary

# 1. 背景と目的

Background and Objective

# 2. 国内観光行動の時系列分析

Time-series Analysis on Domestic Tourists' Behavior

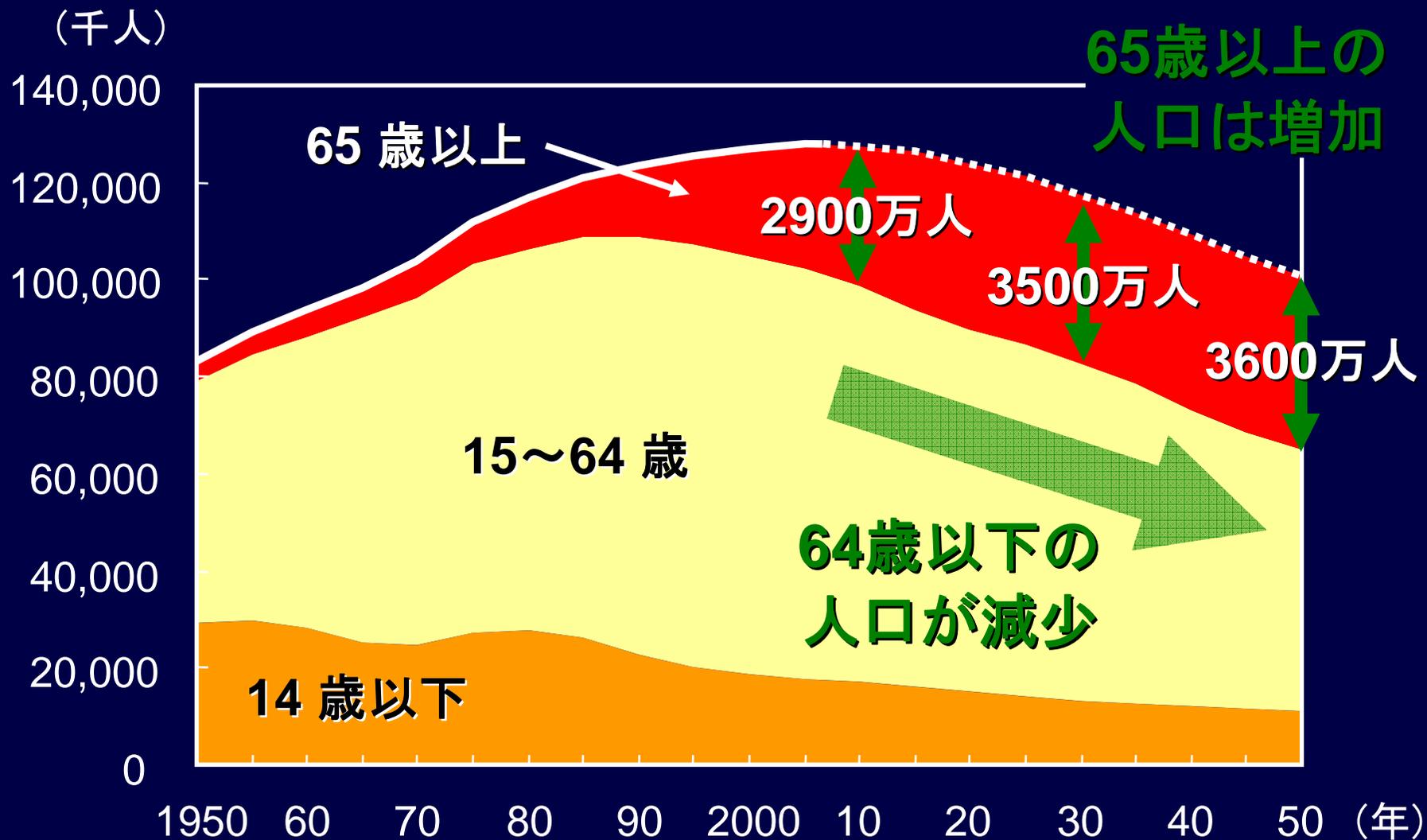
# 3. 団塊の世代の観光行動

Domestic Tourists' Behavior of Baby Boomers

# 4. まとめ

Summary

# 日本の総人口の推移と予測



総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」より作成

© Naohiko HIBINO, Institute for Transport Policy Studies, 2006

# 高齢社会の定義

## 高齢者

65歳以上

## 高齢化率

高齢者の人口 ÷ 全人口 × 100 (%)

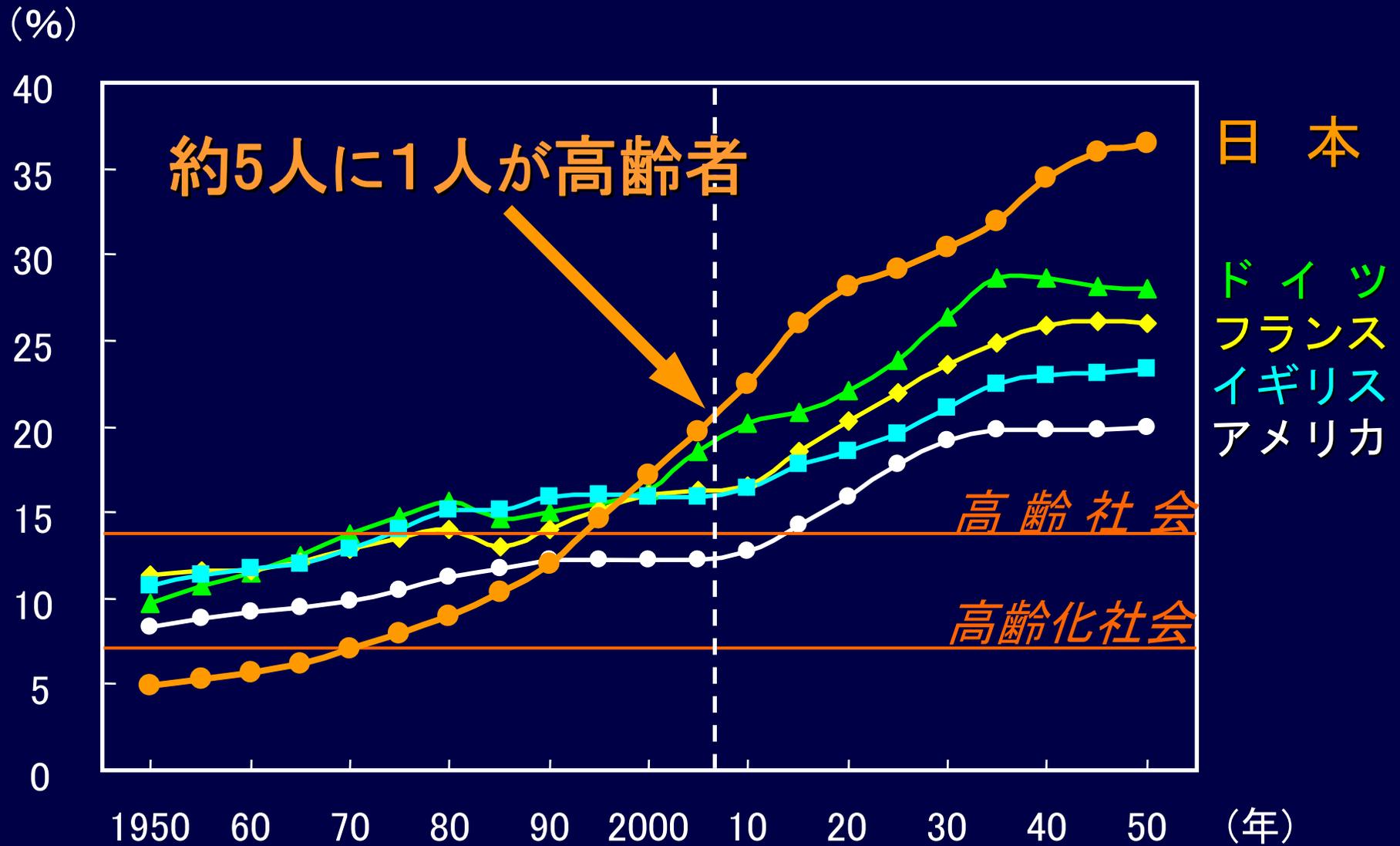
## 高齢化社会 (Aging Society)

高齢化率が 7% 以上

## 高齢社会 (Aged Society)

高齢化率が 14% 以上

# 世界各国の高齢化率の推移と予測



国際連合「World Population Prospects: The 2002 Revision Population Database」より作成

© Naohiko HIBINO, Institute for Transport Policy Studies, 2006

# 急速に高齢化する日本

「高齢化社会 → 高齢社会」への時間

日本 **24年** 「1970年 → 1994年」  
(長寿化 + 少子化)

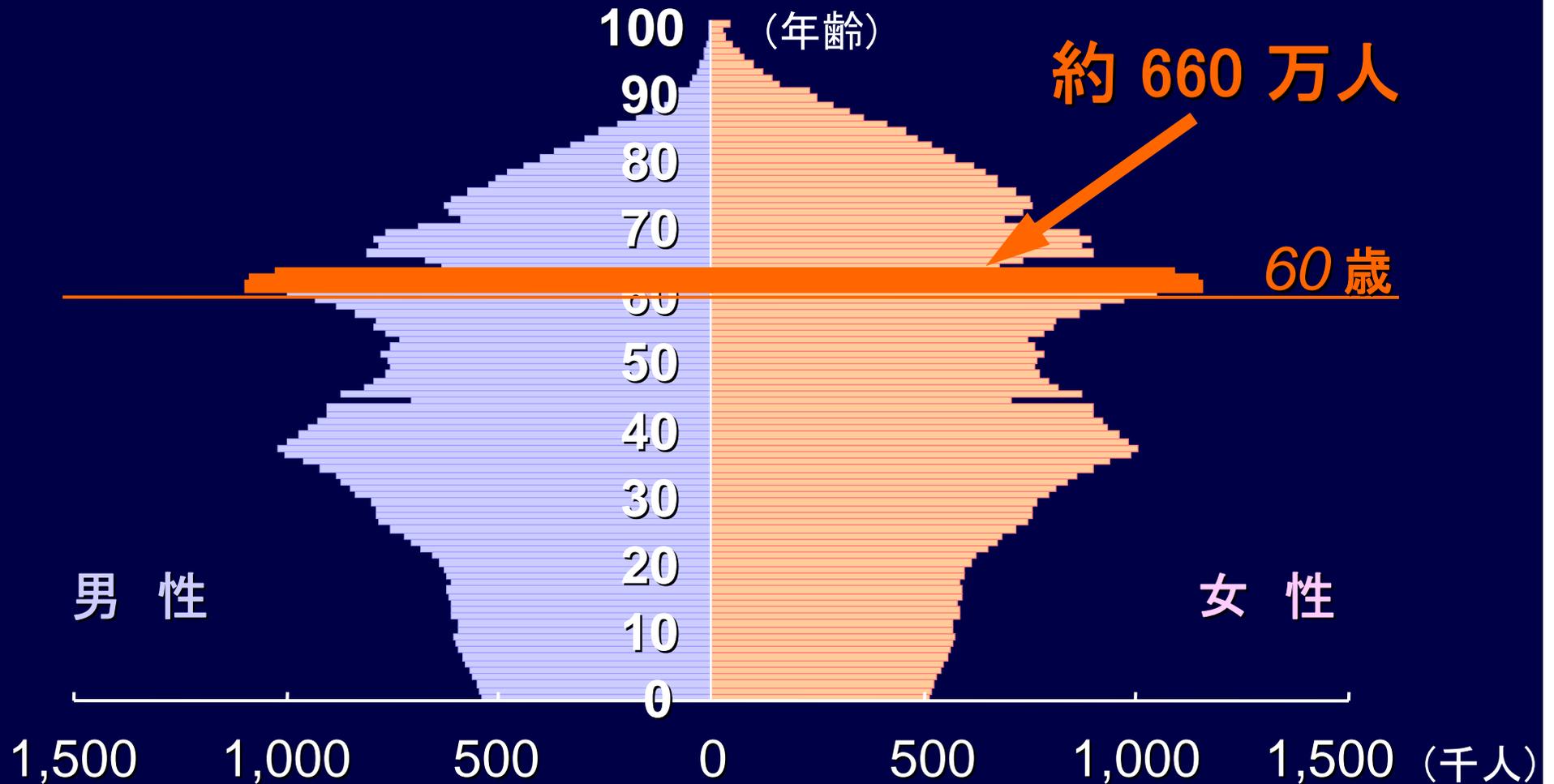


フランス 114年, アメリカ 70年

ソフト面, ハード面ともに  
対応し切れているとは言い難い状況

# 2007年問題

## 団塊の世代が 2007~09年に定年退職



国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口」より作成

# 高齢社会における交通分野の課題

- ・ 男性 約 248 万人, 女性 約 86 万人の  
合計 約 335 万人が 定年退職  
通勤鉄道利用者の減少, 私事交通の増加,  
労働力の減少, 技術の伝承の問題 等
- ・ 身体能力の低下した高齢者の増加  
交通事故の増加, ユニバーサル・デザイン 等
- ・ 援護・介護を必要とする高齢者の増加  
スペシャル・トラスポート・サービス 等

「少子高齢社会における交通のあり方」

# 高齢者の活動意識(1)

定年退職後に夫婦で楽しみたいこと (複数回答)

男性

(%)

1	国内旅行	80.3
2	海外旅行	70.5
3	食べ歩き	62.0
4	日常の買い物 や家事	47.4
5	映画鑑賞	47.0

女性

(%)

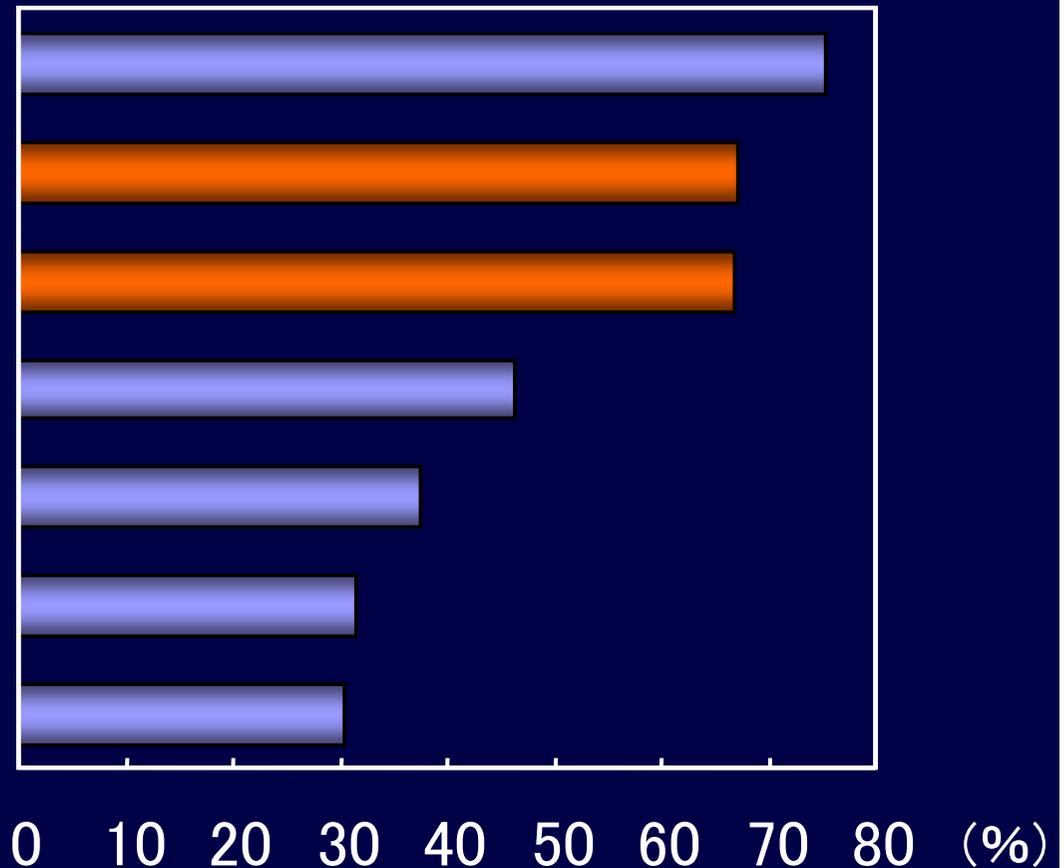
1	国内旅行	67.9
2	海外旅行	64.1
3	散歩・ ウォーキング	46.2
4	映画鑑賞	42.7
5	食べ歩き	40.2

博報堂「HOPEレポートXI(2003年調査)」より作成

# 高齢者の活動意識(2)

お金をかけても良いと思うこと (複数回答)

- 自分の健康に関すること
- 自分の趣味に関すること
- 旅行やレジャーに関すること
- 子供や孫に関すること
- 家や住まいに関すること
- 配偶者に関すること
- 自分の習い事に関すること



「シニア世代実態調査」より作成

# 新たな市場

自由時間・可処分所得の多い

アクティブな高齢者

高齢者の観光行動の増加

# 今後の高齢者

数の増加 活動の変化

# 団塊の世代の活動への着目

同じ年齢であったとしても、  
「10年前の60歳代」「今の60歳代」  
「10年後の60歳代」の行動は異なる!?



今後の高齢社会における観光施策を  
検討する上で、今までの高齢者と  
団塊の世代の違いを明らかにすることは重要

**団塊の世代**の特徴に焦点をあてた時系列分析

# 目 的

高齢社会の観光施策の検討に向けて、  
既存の統計データを用いた時系列分析を  
行うことにより、観光行動の時系列変化を  
把握するとともに、団塊世代の特徴を  
整理することを目的

# 1. 背景と目的

Background and Objective

# 2. 国内観光行動の時系列分析

Time-series Analysis on Domestic Tourists' Behavior

# 3. 団塊の世代の観光行動

Domestic Tourists' Behavior of Baby Boomers

# 4. まとめ

Summary

# 前回(第18回)の研究報告会

1970～2000年における  
国内観光行動の時系列変化



時代, 年代, 世代 の視点から分析

# 分析データ

## 国民の観光に関する動向調査

社団法人 日本観光協会が調査し、  
「観光の実態と志向」として出版

年齢層別にデータが整備

1970, 1980, 1990, 2000年の  
調査結果を使用

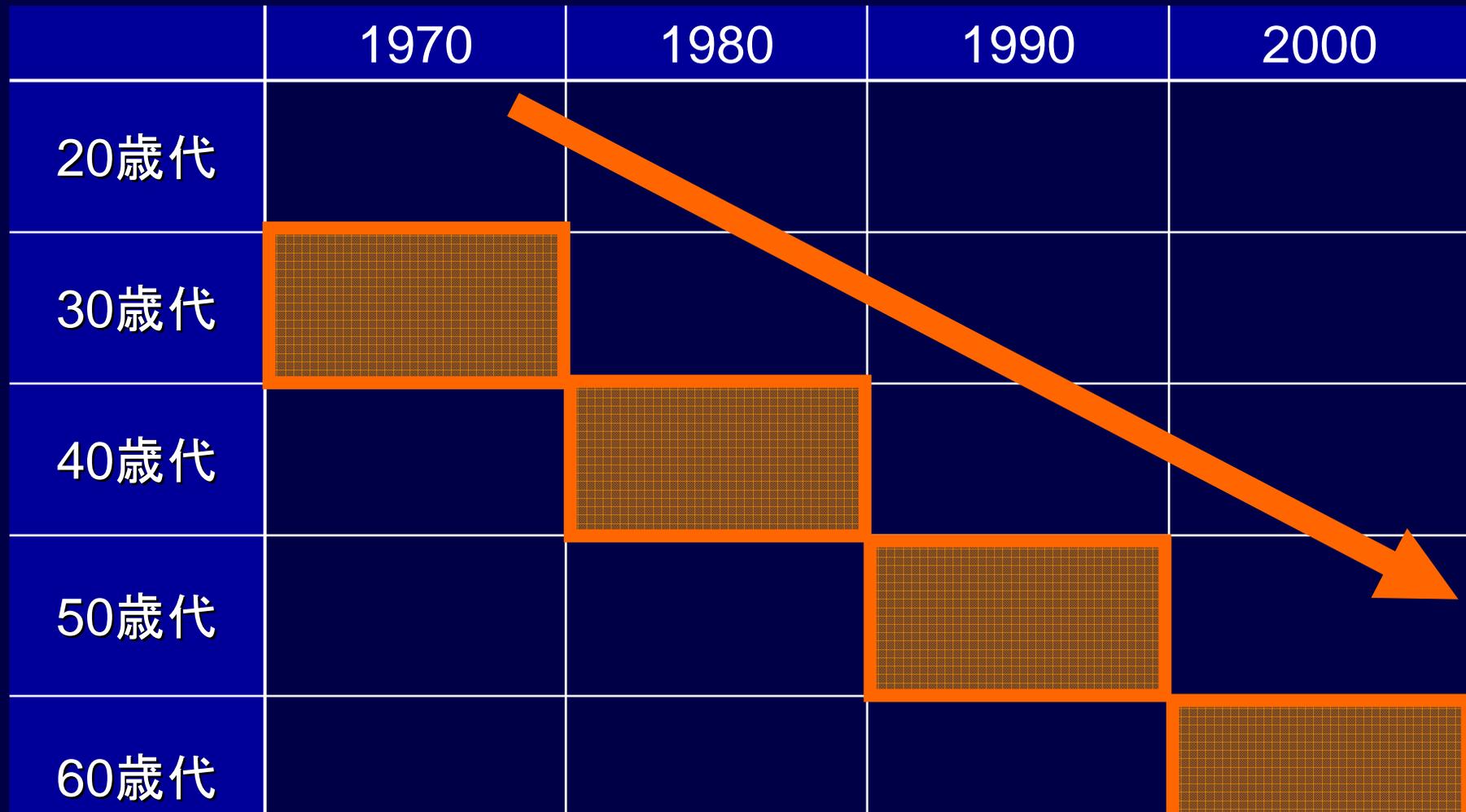
	1970	1980	1990	2000
20歳代				
30歳代				
40歳代				
50歳代				
60歳代				
70歳以上				

	1970	1980	1990	2000
20歳代				↑
30歳代				
40歳代				

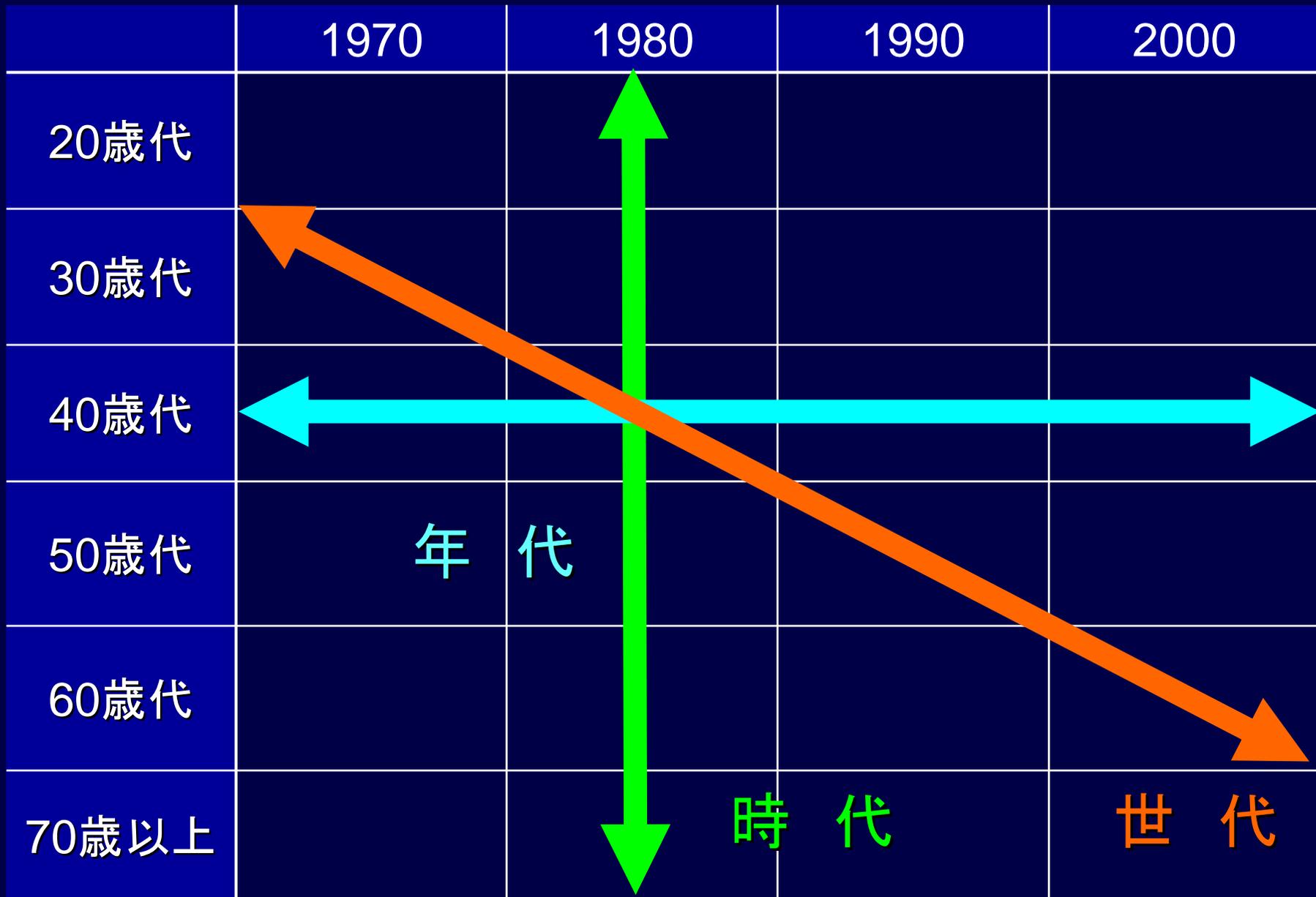
各 **時代** における **年代**（年齢層）の 差

60歳代				↓
70歳以上				

	1970	1980	1990	2000
20歳代				
<b>各年代の時代（時系列）変化</b>				
40歳代				
50歳代				
60歳代				
70歳以上				



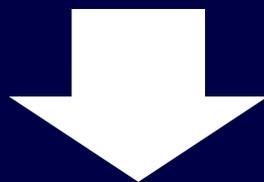
## 各世代の時代・年代（時系列）変化



各観光行動に対して性・年齢層別の  
時代, 年代, 世代 毎のグラフを作成

グラフの形状より観光行動特性を抽出

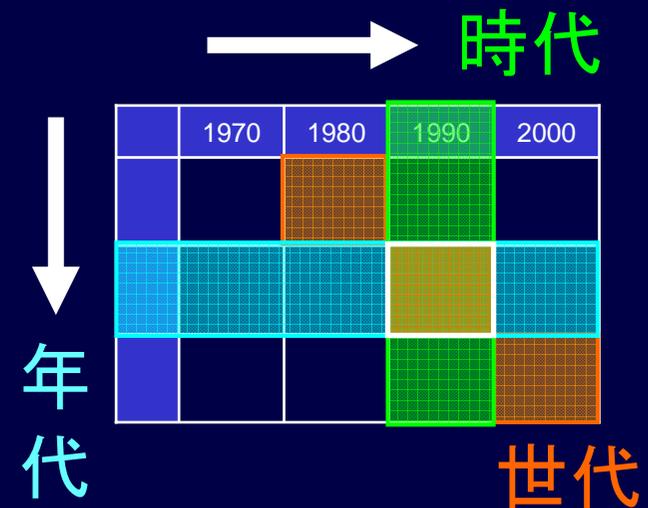
時代, 年代, 世代 の影響, 特徴を整理



これらを定量的に分析！

# コホート分析

国内宿泊観光行動を、  
時代(Period),  
年代(Age)の影響と  
世代(Cohort)の特徴に分解



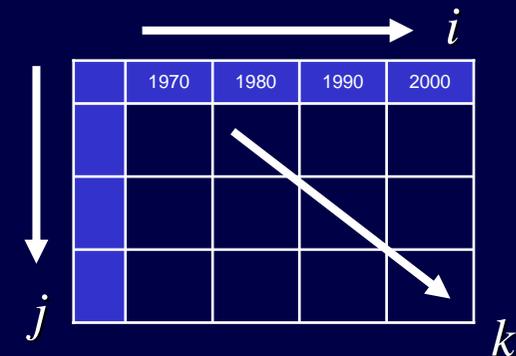
観光行動

= 時代の影響 + 年代の影響 + 世代の特徴

# コーホート分析に用いる式

$$x_{ij} = \mu_i^{\text{時代}} + \mu_j^{\text{年代}} + \mu_k^{\text{世代}} + \mu_0 + \varepsilon_{ij}$$

$$\sum_{i=1}^I \mu_i^{\text{時代}} = \sum_{j=1}^J \mu_j^{\text{年代}} = \sum_{k=1}^K \mu_k^{\text{世代}} = 0$$



$x_{ij}$  :  $i$  時代の  $j$  年代において観測された観光行動

$\mu_i^{\text{時代}}$  :  $i$  時代の影響を表現するパラメータ

$\mu_j^{\text{年代}}$  :  $j$  年代の影響を表現するパラメータ

$\mu_k^{\text{世代}}$  :  $k$  世代の特徴を表現するパラメータ

$\mu_0$  : 総平均効果       $\varepsilon_{ij}$  : 誤差項

# 対象とする項目

- 国内宿泊観光旅行者数
- 国内宿泊観光旅行の回数
- 国内宿泊観光旅行の費用
- 休養(避暑・避寒・温泉浴)旅行の回数

# 国内宿泊観光旅行者数

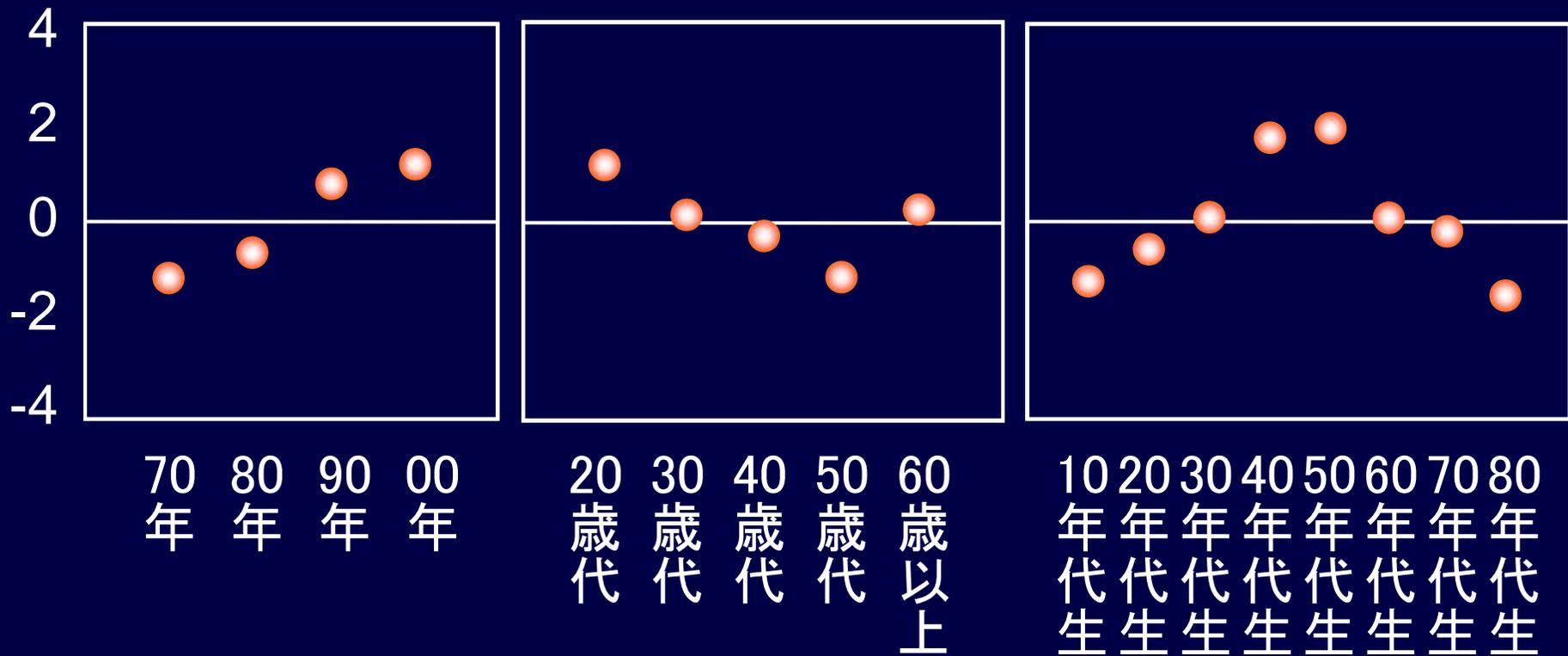
男性 総平均効果：486（万人／年）

(百万人/年)

時代

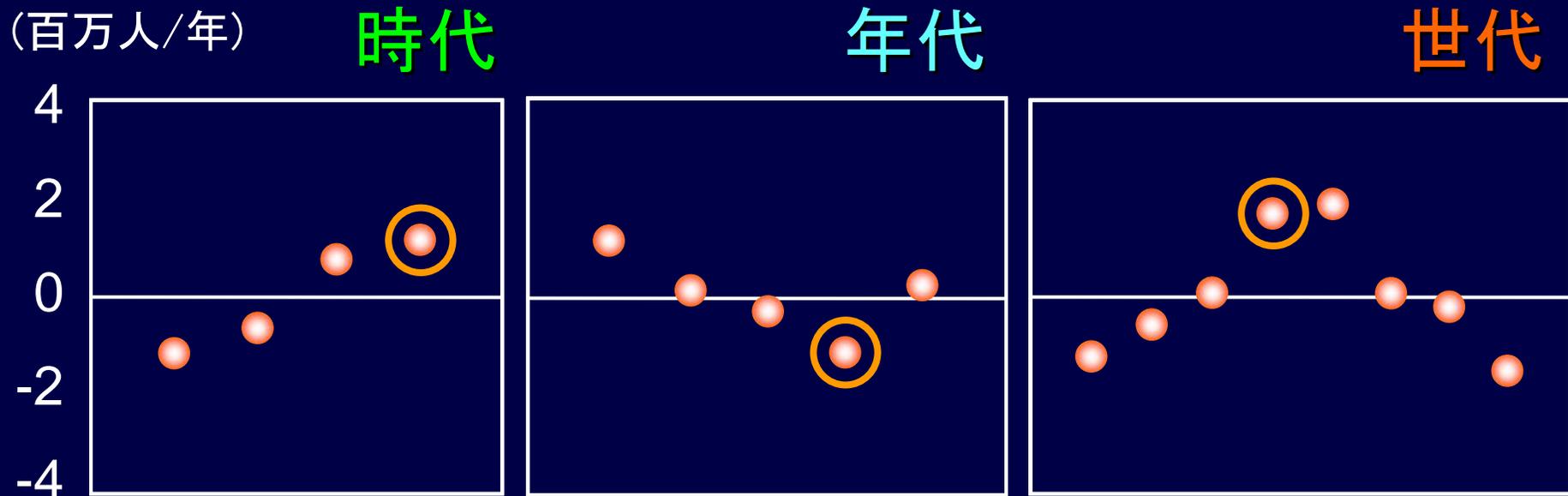
年代

世代



# 国内宿泊観光旅行者数

男性 総平均効果：486（万人／年）

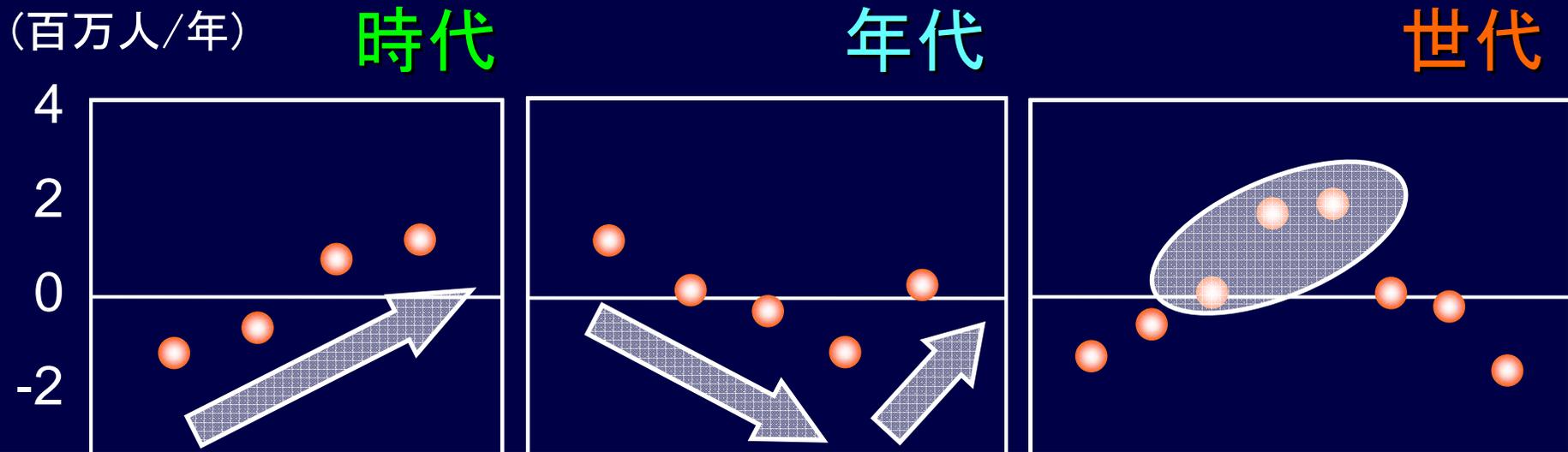


2000年 50歳代（団塊の世代）の旅行者数

$$1.16 - 1.23 + 1.49 + 4.86 = \text{約 } 6.27 \text{ (百万人/年)}$$

# 国内宿泊観光旅行者数

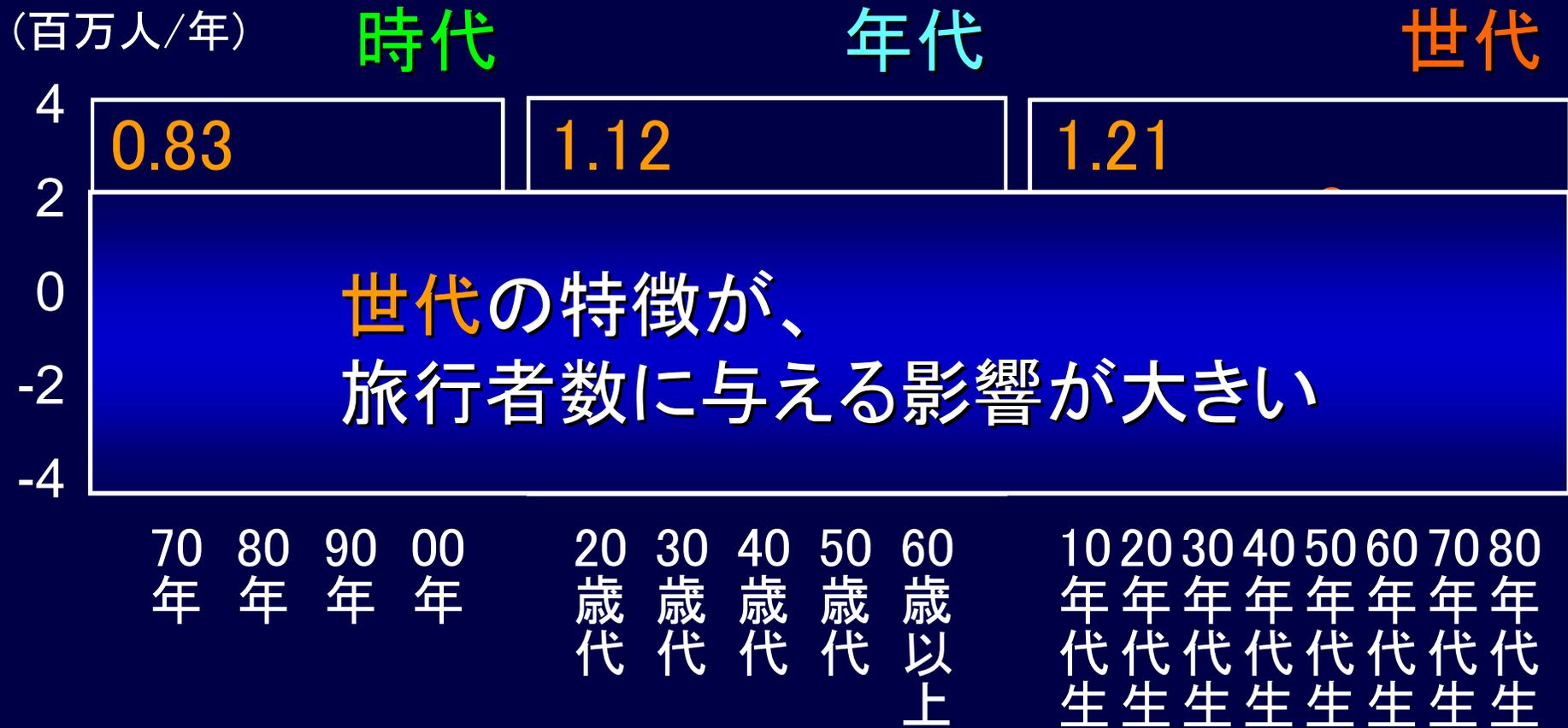
男性 総平均効果：486（万人／年）



時代の影響は年々増加,  
年代の影響は50歳代まで減少, 60歳以上で増加  
世代の特徴は1940, 50年代生でプラス効果

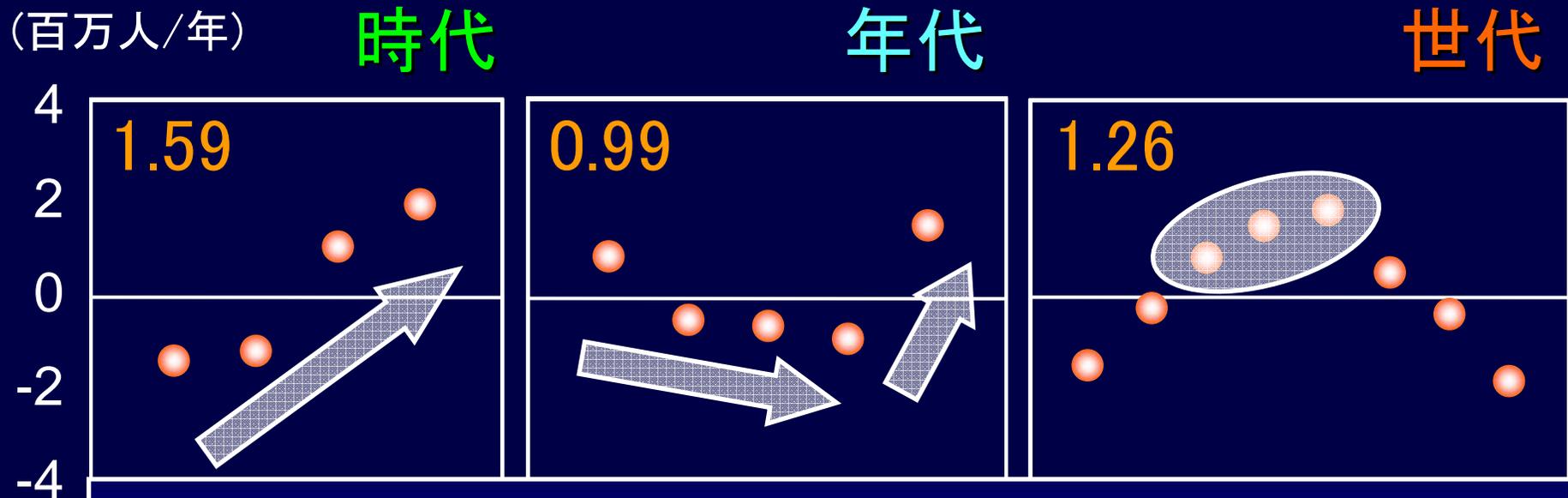
# 国内宿泊観光旅行者数

男性 総平均効果：486（万人／年）



# 国内宿泊観光旅行者数

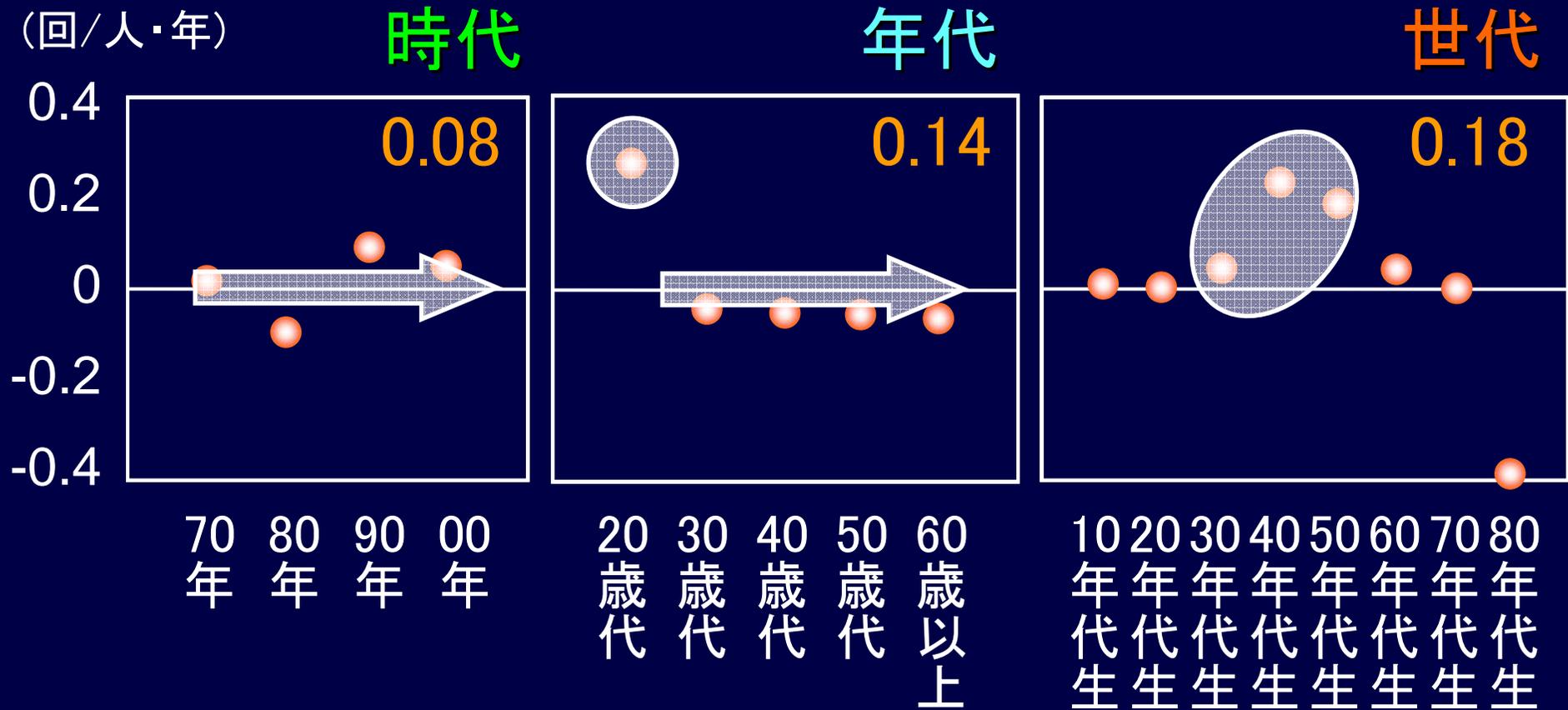
女性 総平均効果：465（万人／年）



時代, 年代, 世代ともに男性と類似した傾向  
時代の影響が大きい

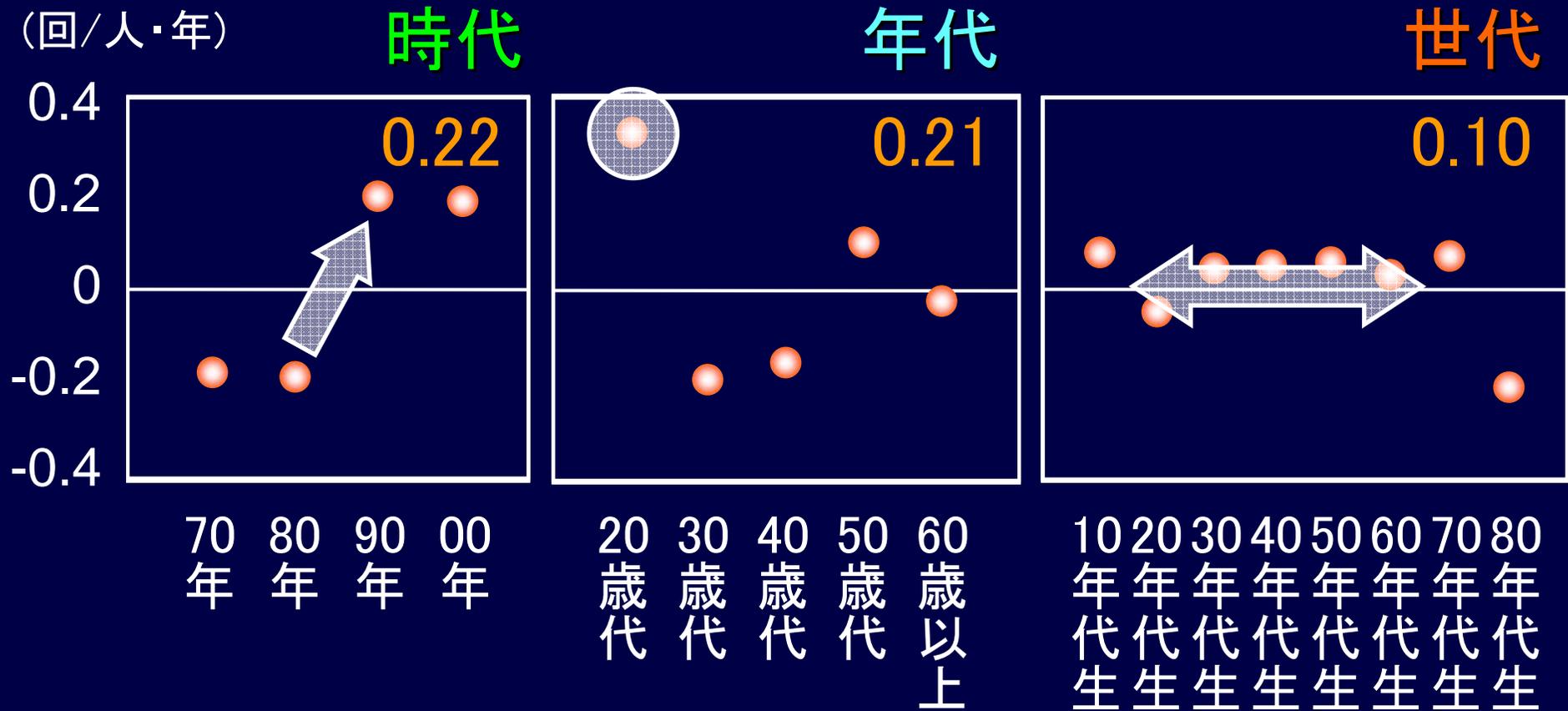
# 国内宿泊観光旅行の回数

男性 総平均効果：1.16（回／人・年）



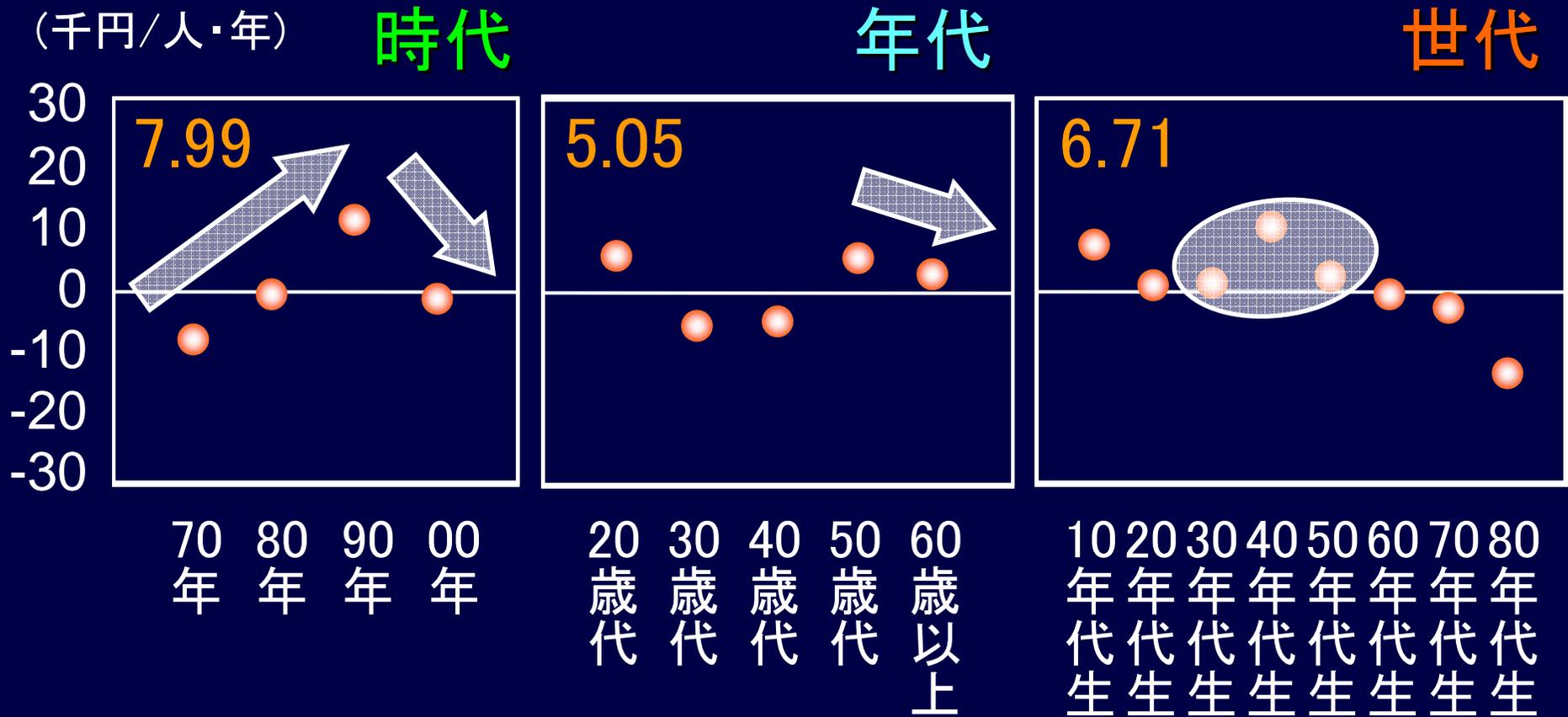
# 国内宿泊観光旅行の回数

女性 総平均効果：1.04（回／人・年）



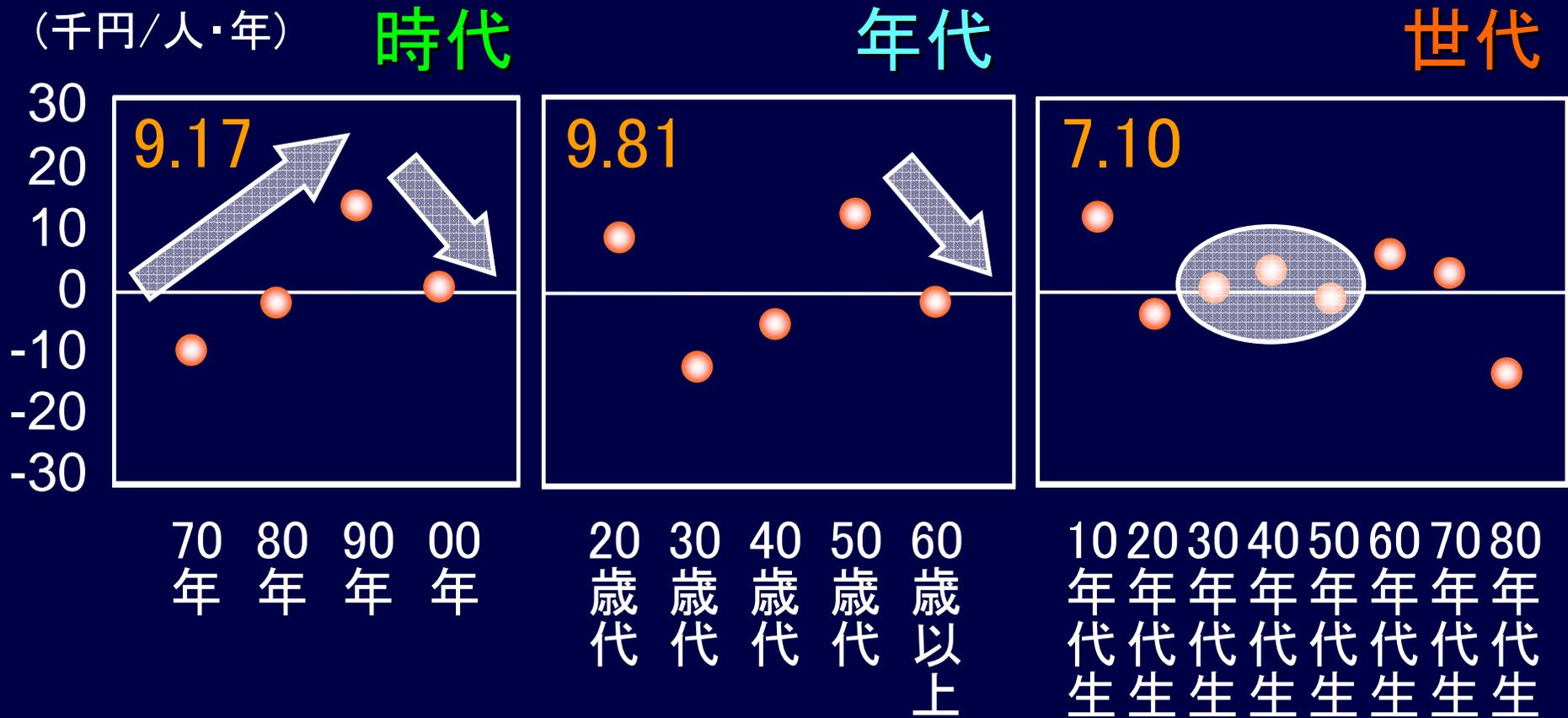
# 国内宿泊観光旅行の費用

男性 総平均効果：45,400（円(2000年) / 人・年）



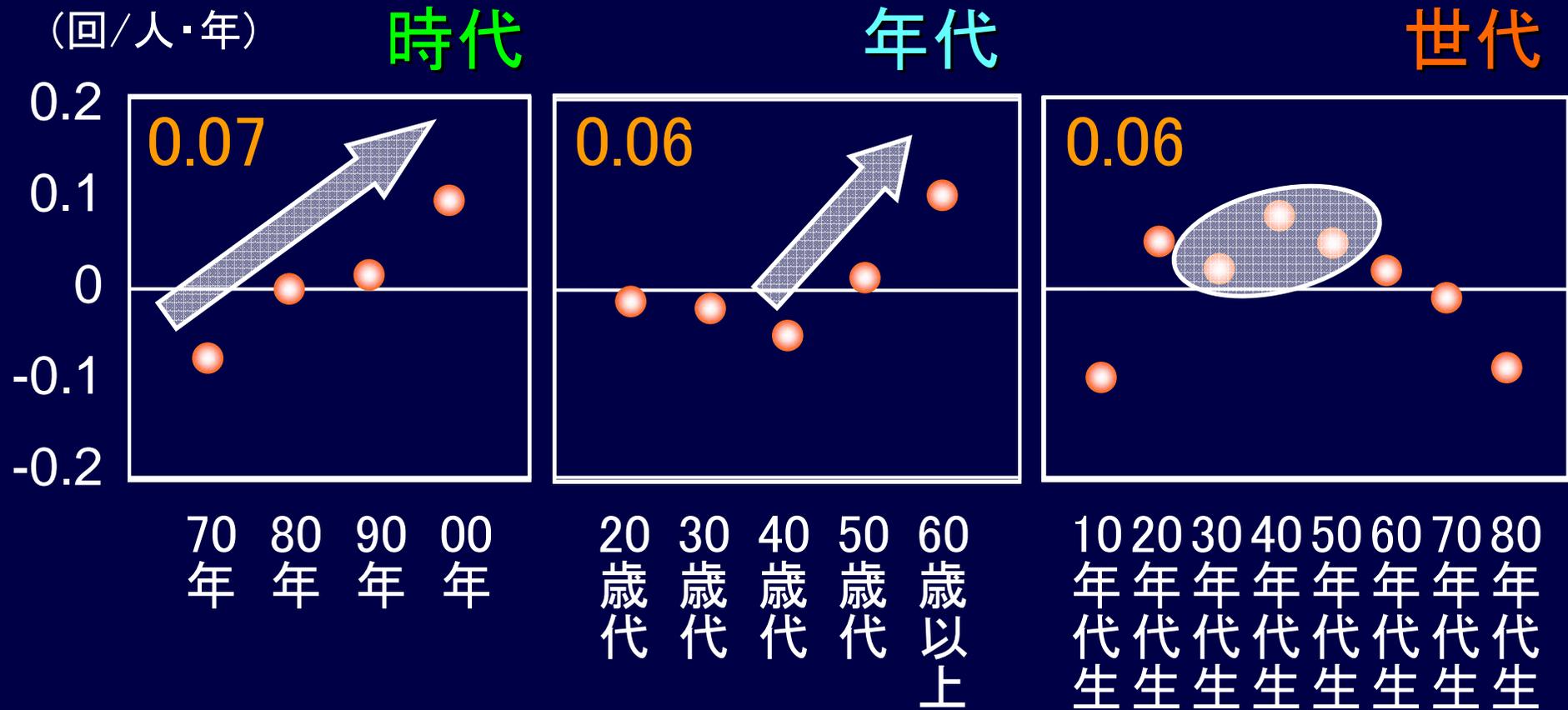
# 国内宿泊観光旅行の費用

女性 総平均効果：40,600（円(2000年) / 人・年）



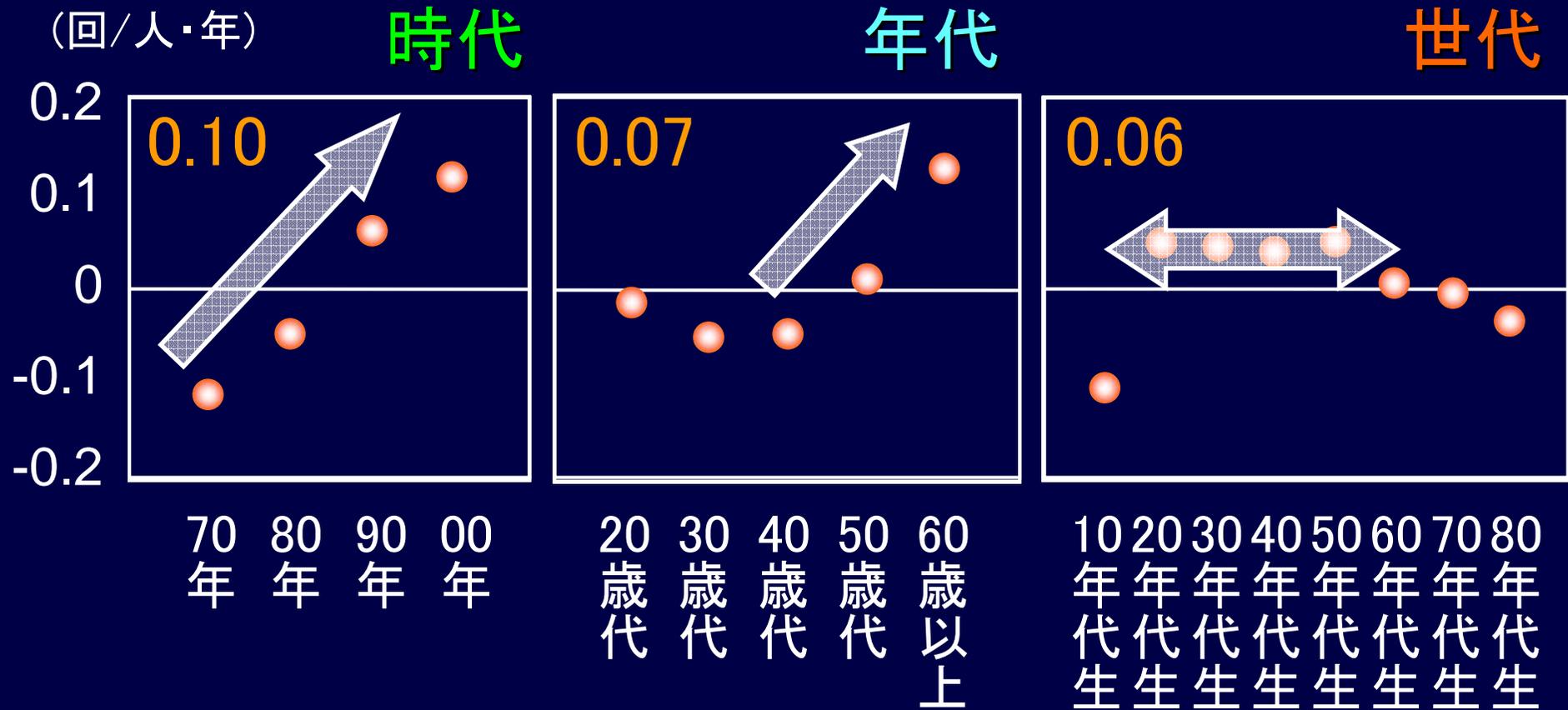
# 休養(避暑・避寒・温泉浴)旅行の回数

男性 総平均効果：0.15 (回 / 人・年)



# 休養(避暑・避寒・温泉浴)旅行の回数

女性 総平均効果 : 0.18 (回 / 人・年)



# 各項目の総平均効果

	男 性	女 性
旅行者数	486 (万人/年)	465 (万人/年)
旅行の回数	1.16 (回/人・年)	1.04 (回/人・年)
旅行の費用*	45,400 (円/人・年)	40,600 (円/人・年)
休養旅行の回数	0.15 (回/人・年)	0.18 (回/人・年)

\* 2000年基準

# 国内観光行動の時系列分析のまとめ

## コーホート分析の結果より

- 世代の特徴は、男性の方が女性より強い
- 女性の旅行回数以外は、  
団塊の世代と現在の60歳代では  
異なる特徴を有している
- 総平均効果は、  
休養旅行の回数以外は男性が高い

# 1. 背景と目的

Background and Objective

# 2. 国内観光行動の時系列分析

Time-series Analysis on Domestic Tourists' Behavior

# 3. 団塊の世代の観光行動

Domestic Tourists' Behavior of Baby Boomers

# 4. まとめ

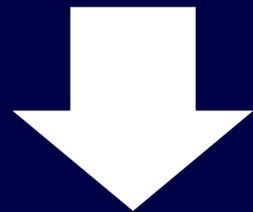
Summary

# 団塊の世代の今後の観光行動

「コーホート分析」の結果, 「高齢者・団塊の世代を対象としたアンケート調査」の結果, 2005年の「国民の観光に関する動向調査」の結果を基に、今後の団塊の世代の観光行動を分析する

# 2010年の団塊の世代の観光行動の予測

コーホート分析の結果から時代の影響を  
予測することにより2010年の観光行動を  
算出する

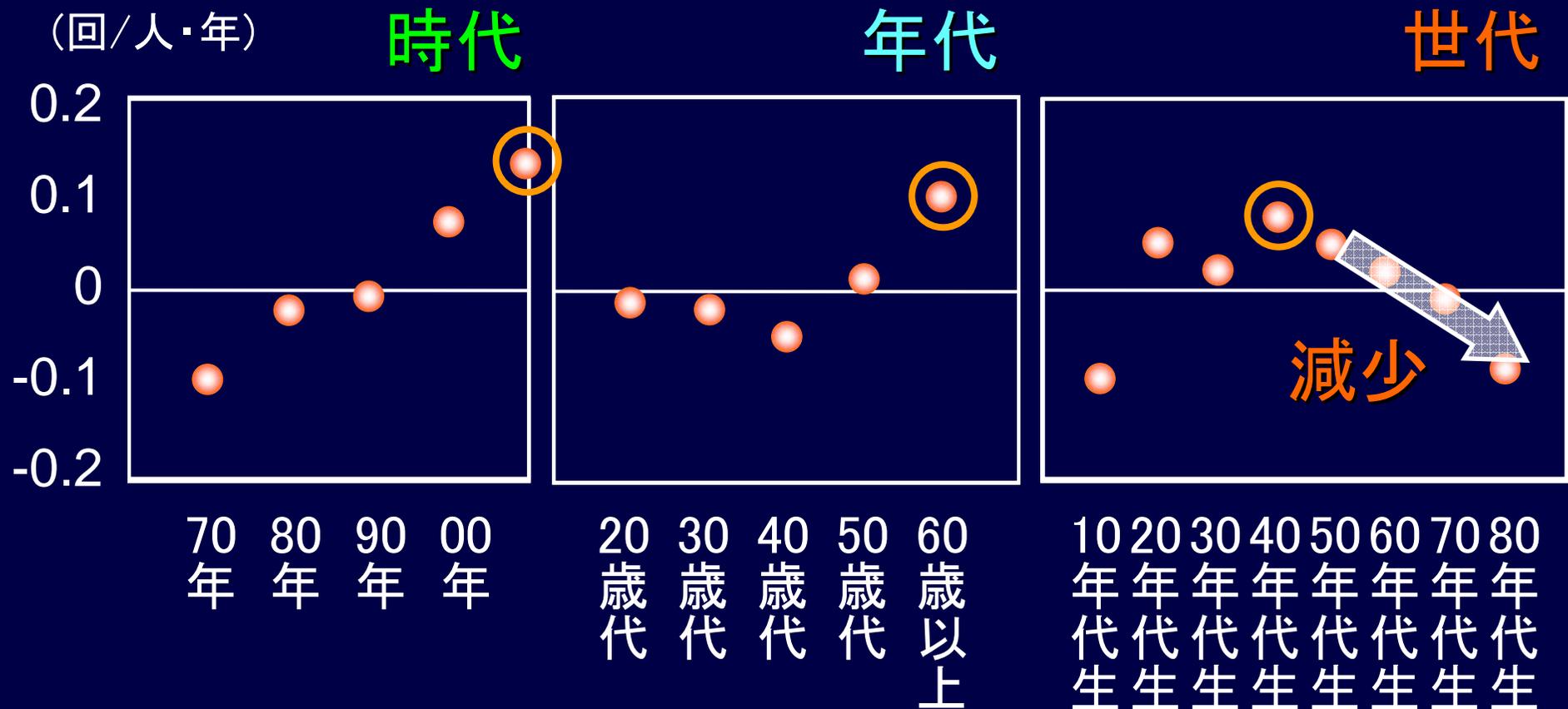


例えば、  
団塊の世代 男性の休養旅行の回数はいくつ？

$$0.13 + 0.09 + 0.07 + 0.15 = 0.44 \text{ (回 / 人} \cdot \text{年)}$$

$$0.44 \times 8,656 \text{ (千人)} = \text{約 } 380 \text{ (万回 / 年)}$$

$$\text{約 } 380 - \text{約 } 250 = \text{約 } 130 \text{ (万回 / 年) 増}$$



# 休養旅行の回数

団塊の世代の後より、  
「人口」、「世代の特徴」とともに減少に転じる

10～20年は増加するが、その後確実に減少  
人口減よりもはやい速度での減少が予想

これを踏まえ、今後の10年、その後の10年の  
観光施策を検討していくことは重要！

# 活動別の同行者の種類

(%)

国内旅行	1位		2位		3位	
60歳代 男性	夫婦で	45	友人	26	家族全員	26
60歳代 女性	友人	44	夫婦で	39	子供	14
映画や展覧会	1位		2位		3位	
60歳代 男性	夫婦で	31	友人	10	子供/ひとりで	7
60歳代 女性	友人	31	ひとりで	19	夫婦で	14
贅沢ランチ	1位		2位		3位	
60歳代 男性	夫婦で	24	家族全員	19	友人/子供	7
60歳代 女性	友人	33	夫婦で	17	子供	8
街でのショッピング	1位		2位		3位	
60歳代 男性	夫婦で	48	ひとりで	7	友人	5
60歳代 女性	ひとりで	39	友人	25	夫婦で	19

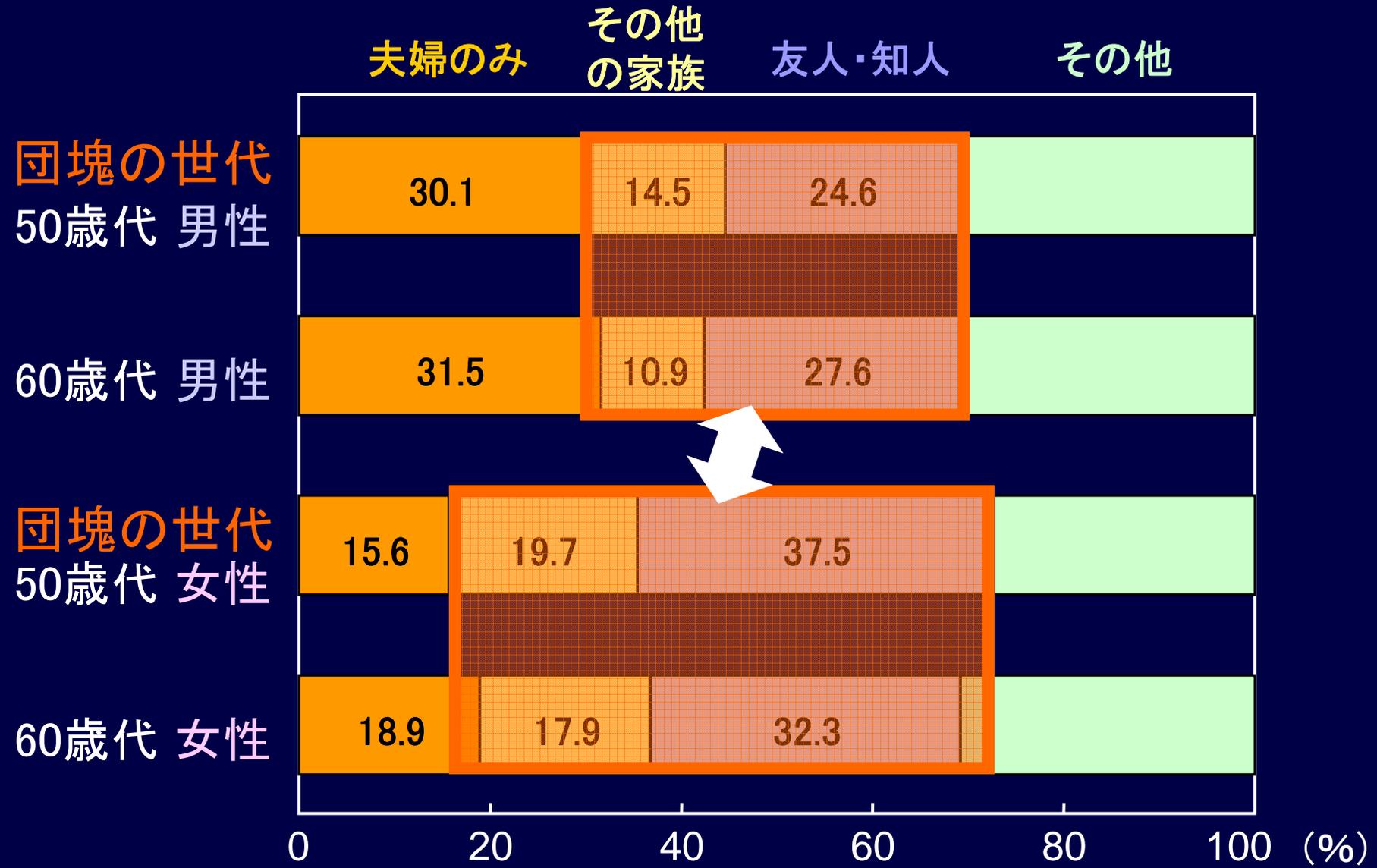
電通「熟年調査 '99」より作成

# 宿泊観光旅行の同行者の比較



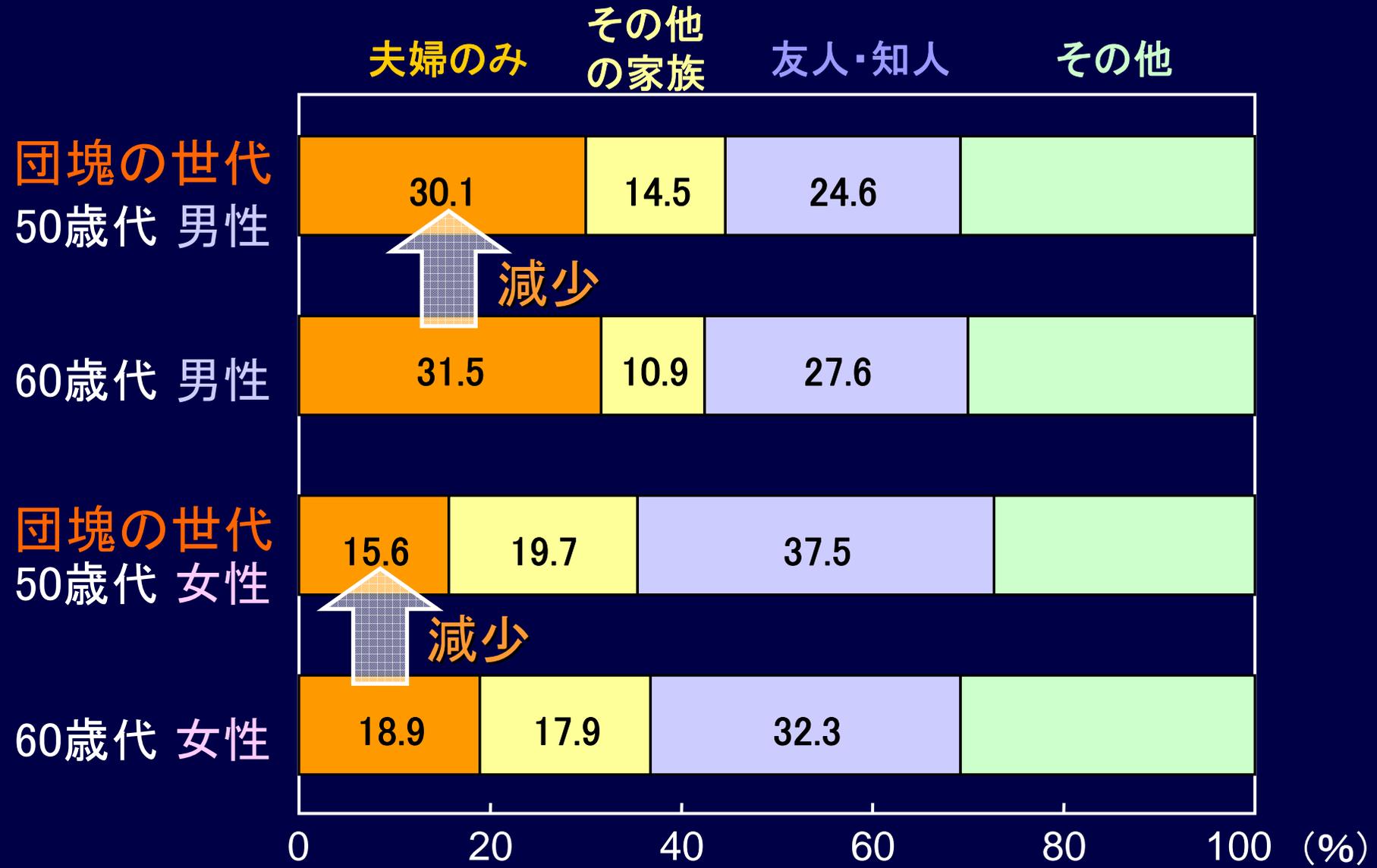
日本観光協会「第24回 国民の観光に関する動向調査」より作成

# 宿泊観光旅行の同行者の比較



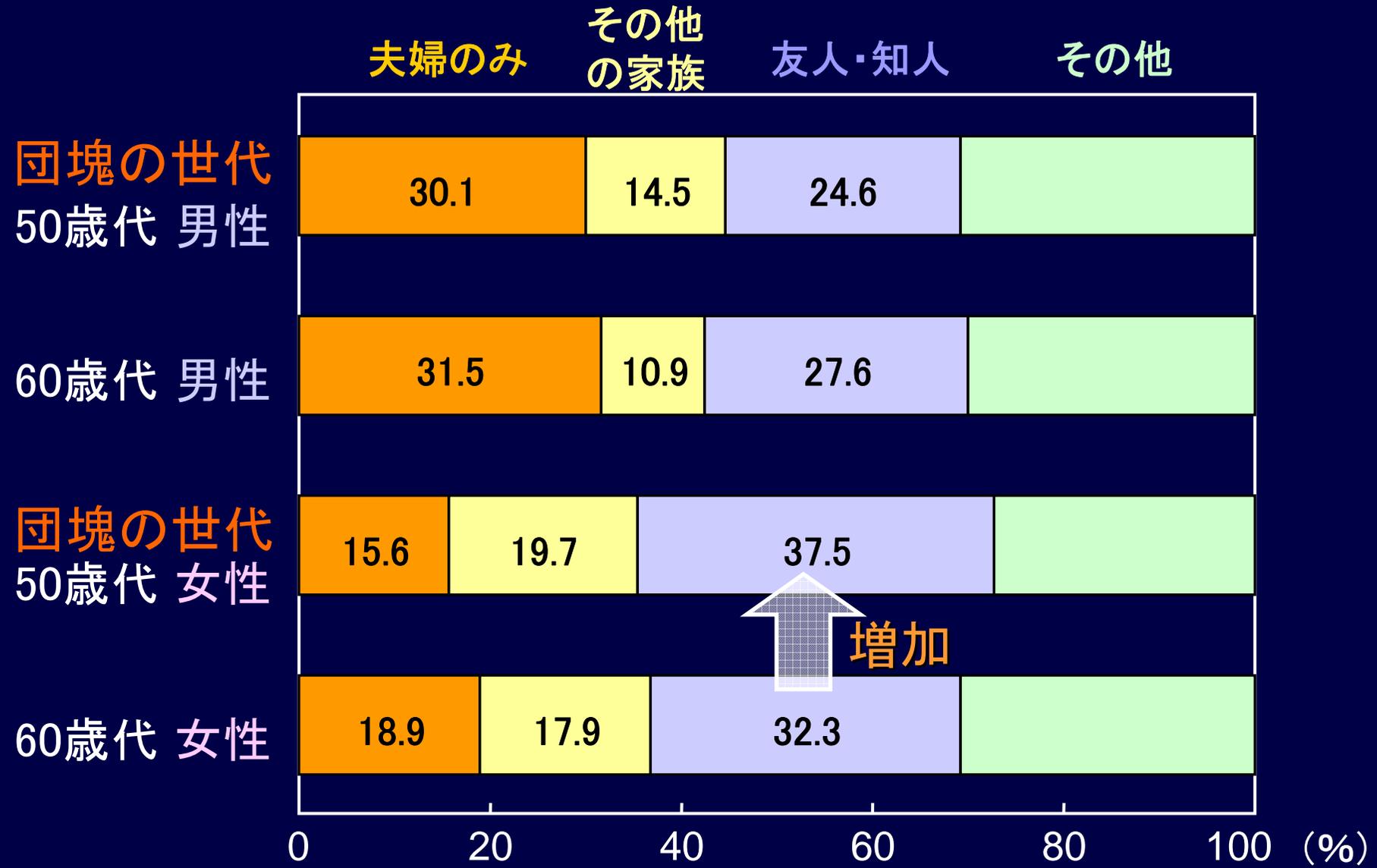
日本観光協会「第24回 国民の観光に関する動向調査」より作成

# 宿泊観光旅行の同行者の比較



日本観光協会「第24回 国民の観光に関する動向調査」より作成

# 宿泊観光旅行の同行者の比較



↑ 増加

日本観光協会「第24回 国民の観光に関する動向調査」より作成

{ 夫婦で田舎で暮らす, 二地域居住  
夫婦での国内宿泊観光旅行

団塊の世代の人数の関係で増加はするが・・・  
女性の都市居住志向, 友人との活動志向より  
劇的な増加は期待できない!?

都会育ちの団塊Jr.世代は  
さらにその傾向が強い可能性あり



**団塊の世代 女性の  
友人同士の旅行にターゲット**

# 1. 背景と目的

Background and Objective

# 2. 国内観光行動の時系列分析

Time-series Analysis on Domestic Tourists' Behavior

# 3. 団塊の世代の観光行動

Domestic Tourists' Behavior of Baby Boomers

# 4. まとめ

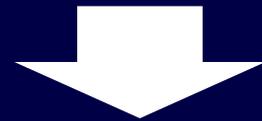
Summary

# まとめ

団塊の世代の定年退職



人数の増加に加え、活動の変化



活動の変化(世代の特徴の差)に  
焦点をあてた国内観光行動分析

時代, 年代, 世代 の影響を定量的に分析

団塊の世代 男性 → 世代の特徴 大

今までの 60歳代 男性 とは  
異なった施策が必要

夫婦での観光行動

→ 数は増加するがシェアは減少

## 高齢社会の観光行動の増減

→ 時代変化, 人口増減, 活動の変化...



活動の変化(世代の特徴)に着目し、  
観光施策を検討していくことが重要！

# 今後の課題

時系列分析

+

観光行動分析

個々の観光行動に着目した詳細な行動分析

デモグラフィック+サイコグラフィック

属性に加え、価値観を考慮した分析